

## 令和3年度「市長と語り合う会」について（東仙道地区）

### 1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和3年 10月5日（火）	東仙道公民館	19:00～20:00	25	7	32

うち、東仙道小児童 (3) (2) (5)

- 市側出席者  
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

### 2 会の概要

- 開会（秘書課長）
  - ・ 会の趣旨説明
  - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

### 1. 令和3年度施政方針「コロナ対応と次の跳躍への備え」

#### ・ワクチン接種

コロナ対応は令和2年から始まっており、昨年度は国の特別定額給付金をいち早くお届けすること、市独自の緊急経済応援給付金などの経済的支援が主であった。今年度はやはりワクチン接種を進めることを第一に取り組んでいる。いまだ治療法や治療薬が確立していないため、予防のためのワクチン接種が何より重要である。まずは医療従事者等、次いで65歳以上の方、それ以下の方と進め、現在優12歳以上のすべての市民を対象に接種を行っている。現在1回目で約85%、2回目で約73%の市民が接種を終えている。今後は予約がまだの方や、順次12歳を迎える子どもの接種を継続して行う。また、3回目の接種についての話も出ており、まだ国から詳細が示されていないが、今後の課題として進めていきたい。先月末をもって全都道府県の緊急事態宣言、まん延等防止措置が取り下げられ、市内の感染状況も落ち着いているので、今後は経済を回すことに重点を置きながら、感染予防措置を並行して進めていく。

#### ・空港・高速道路関連

萩・石見空港は、昨年度の羽田空港発着枠政策コンテストを経て、東京線2往復運航の継続が決まった。現在はコロナの影響で利用が急減し、多くても1便で、全く飛ばない日もある。空港利用促進を派手に進めることはできない中で、コロナ終息後に勢いよく利用拡大を図っていけるよう下準備を進めている。

高速道路については、三隅～益田道路が令和7年中に開通の見通しで、少しでも早い開通を引き続き国に要望していく。また昨年度は益田西道路が、今年度は須子～田万川間が事業化となった。益田西道路には、臨空ファクトリーパーク近傍にインターチェンジができる予定で、新しい企業の誘致にもアピールしていける。

#### ・日本遺産認定を活かす施策

益田市の中世に関する様々な歴史遺産が、全国108カ所のひとつとして昨年度に認定を受けた。歴史遺産を生かしてまちづくりを進め、誘客を増やす準備を進めている。休館中の歴史資料館をビクターセンター（仮称）とし、史跡を巡る散策の拠点となるよう整備する。これは、行政はもちろん、地元をはじめとする民間との連携も重要であり、いっしょになって取組みたい。

#### ・益田市型中高一貫教育の実現に向けた取組

中学高校の6年間を、一貫した形で行い、学力の向上、市の教育水準の引き上げなどを目指す。

前段階の小学校や未就学児の学習意欲増進、また大学進学・就職を見越し、将来益田に帰り、活躍してくれることを願って、教育環境を整備していく。市内に多くあるものづくり企業の人材充実や、医療従事者の確保などの課題がある。まずは理系人材育成を重点分野として取り組みたい。これについては島根大学が、県内の高校生の入学、大学卒業後の県内就職を増やす方針で取り組みを行っており、連携を深めていくことを考えている。

## 2. 美都・匹見総合支所の名称変更

合併以来、旧町役場に支所を設置し部長級の支所長を配置し、4課或いは3課編制を経て現在は地域振興課1課で運用してきたが、令和4年度からは支所という名称・支所長の配置について見直す。課長級職員をトップとし、基本的な業務は本庁で統一化する。こうした整理や簡素化は、行政サービスの低下を危惧されると思うが、住民票の発行などの通常業務は、従来通りの対応を維持する。美都は本庁と近いので、本庁の担当者が美都地区についても責任を持って対応できるよう、体勢を強化していく。ただ災害の頻発、大規模化などがあり危機管理の重要性は高まっており、そうした配慮は続けていく。何とか市役所全体のスリム化を図りながら、住民サービスを低下させない措置を講じていくので、ご理解ご協力をお願いしたい。

### ○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 市道の管理について
- ② サザエ・アワビの養殖について
- ③ ワクチン接種予約について
- ④ 市道の補修について
- ⑤ 中央省庁とのパイプについて
- ⑥ 児童からの質問（1）
- ⑦ 児童からの質問（2）
- ⑧ 児童からの質問（3）
- ⑨ 児童からの質問（4）
- ⑩ 児童からの質問（5）
- ⑪ 美都総合支所について
- ⑫ 美都の設備について
- ⑬ 届出について
- ⑭ 県道の倒木について

### ○ 閉会（秘書課長）

## 令和3年度「市長と語り合う会」

〔会場 東仙道公民館 開催日時：令和3年10月5日（火）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 市道の管理について 集落の人口減・高齢化によって、道路の草刈りが大変になっている。また雑木が道に倒れて通行に支障が出ることもある。対応願いたい。</p>	<p>① 市道ということなので市がきちんと管理すべきである。多くの要望をいただいている中ではあるが、緊急性の高いものは早く行うよう指示する。</p>
<p>② サザエ・アワビの養殖について 水仙公園周囲の海辺でサザエ・アワビが採れる。鎌手中跡地にこれらの養殖施設を作ってほしい。空港利用で都市圏へ売り込んでほしい。</p>	<p>② ご提案を実現するためには、技術的課題や法律上の制限等を如何にクリアするかという問題があると思う。研究していきたい。</p>
<p>③ ワクチン接種予約について 高齢者は電話もつながらず、ネット予約の方法もわからず、困っていた方が多い。今後の課題と思うがどう考えるか。</p>	<p>③ 65歳以上の一般の方の時に、最初に殺到し電話がつながりにくい状態になったのは確かである。ただ、少し経過すると落ち着いた。ネット予約は比較的スムーズだったと聞く。3回目に向けて、ある程度繋がりにくさは残ると思うが、経験を反映して取組みたい。</p>
<p>④ 市道の補修について 変電所に至る市道を大きな作業車が通る。道や側溝が破損したら誰が直すのか。</p>	<p>④ 市道であれば市が管理すべきなので対応したい。使用状況にもよるが、場合によっては作業車の所管事業者の一部ご負担いただく場合もあり得る。</p>
<p>⑤ 中央省庁とのパイプについて 職員派遣をどの程度受け入れているか。そうした形で風通しを良くすることは補助金などにも影響してくる。積極的に受けていく努力をしてほしい。</p>	<p>⑤ 文科省より教育長の派遣を受けている。省庁職員の持つ専門知識、人脈などの恩恵にあずかれれば、市としても大きなメリットがある。また派遣終了後も親密な関係継続が期待できる。一方で費用負担の重さはあるので適切な判断を要する。他の方法として、職員同士の意見交換や地元国会議員を通しての要望などがあり、そうした方法の活用も重要である。また補助事業といっても様々で、市の持ち出しが0のものはなかなかない。取捨選択が大事である。</p>
<p>⑥ 児童からの質問（1） どんな益田市にしたいと考えているか。</p>	<p>⑥ 中世に栄えた町なので、歴史に学び、外から人や物呼び込んで活発な街にしたい。</p>
<p>⑦ 児童からの質問（2） 益田市にどんな魅力を感じるか。</p>	<p>⑦ 歴史・文化資源が残っていること、自然が美しく、気候が穏やかで過ごしやすい。地元の人もよそから来た人も仲良く暮らせる街だと思う。</p>
<p>⑧ 児童からの質問（3） 市長としてどんな願いを持っているか。</p>	<p>⑧ 市民の幸せに明るく生き生きと暮らしてほしい。そのために困りごとの解決、希望の実現に頑張りたい。</p>
<p>⑨ 児童からの質問（4） これからどんな活動をしていきたいか。</p>	<p>⑨ 市が元気になるために、地元の人や市外の人力も借りて、新しい流れを持ち込みたい。キャンプに来てくれたパラリンピックの 아일랜드選手が金メダルなどを取ってくれた。そうした人のつながりを作っていきたい。</p>

⑩ 児童からの質問（５）

少子高齢化について、市ではどんなことをしているか。

⑪ 美都総合支所について

４月から９人体制に減り、その後の市の方針の説明がないまま支所見直しの話になった。自治会・地域自治組織への説明ができるのではないか。日常の対応に支障が出ないようにということだが、具体的にどんな業務を残すのか。高齢化が進む中で、税申告などどうしていくのか早く示してほしい。

⑫ 美都の設備について

公民館のトイレを洋式にしてほしい。屋外の防災無線を整備してほしい。

⑬ 届出について

高齢者の運転など大変なことが多い。簡素化してほしい。

⑭ 県道の倒木について

長い間放置されている。

⑩ 悩ましい問題だが、高齢化はおめでたいことであり、病気や要介護になっても安心して暮らせることが大切。一方、東仙道小でも児童が減るなど、少子化が進んでいる。安心して子育てができるまちづくりが必要である。保育所、放課後児童クラブ、学童保育の充実、医療費の支援などの努力を重ねていく。

⑪ 基本的に議会に説明して理解を得ることを第一とし、この「語り合う会」についても、（年間１０地区の開催枠の中で）美都・匹見については優先開催とし、これを説明の機会として行っている。体制について詳細が固まっていないので、確定次第、議会や広報においてお知らせしたい。

⑫ 優先順位に基づいて進めていく。防災情報については、告知端末のお知らせ放送を活用していく。

⑬ 窓口の一本化まではできていないが、煩雑にならないように工夫していく。国の押印廃止などもあるので追従していく。

⑭ 県に改善を求めていく。